

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人以和貴会
事業所名	老人グループホームさくら通
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町下小原3103番地2 (電話) 0994-62-8887
自己評価作成日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は鹿屋市の東部に位置し、中心街と国道1本で繋がり、最寄りのバス停から徒歩5分の場所にあります。バス停に隣接してコンビニエンスストア、たこ焼き屋があり、散歩を兼ねた買い物に利用できます。自然豊かな環境にあり、敷地内には広い芝生の庭があり、銀杏や樺、桜などの木々が立ち並び、鳥のさえずりを聞きながら季節を楽しむことができます。建物内は天井が高く開放感があり、外の景色を眺めながら食事を摂る事ができます。1号館は居間の一部に畳の間を設けており、洗濯物を畳んだり寛いだりするスペースとして使用しています。2号館の食堂ホールはゆとりのある広々としたスペースとなっており、1,2号館合同で敬老祝賀会やクリスマス会など季節ごとの行事を楽しむ場として、多目的に使用しています。

恵まれた環境の中で当施設はご利用者お一人おひとりの意向を大切にしたい支援を理念とし、地域に開かれた施設を目指しています。認知症の相談窓口として、オレンジの窓を設置し、気軽に相談できる環境を整えています。ご家族や地域にお住まいの方々に温かいご支援、ご協力をいただきながら、入居後も運動会等の地域行事に参加できるよう支援しています。感染症の流行下においては、日常の基本的な感染症対策をマニュアルを基に実践し、感染症を持ち込まない拡げないを目標に、冷静且つ的確に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体拘束廃止委員会を2か月毎に開催すると共に、年2回身体拘束や虐待に関する研修会に参加し、フィードバックのための内部研修を実施している。また、無記名による「虐待の芽チェックリスト」アンケートを3か月毎に職員全員に提出してもらい、集計結果を基に話し合いを行い現状の確認と振り返る機会とすることで意識づけを図っている。「ちょっと待って」等、危険回避のために使ってしまう言葉も行動制限につながるため、身体拘束に当たることを認識すると共に、待ってもらうための理由を添えて伝えるよう、繰り返し職員間で確認し合っている。

ケアプランを作成する際は、本人や家族の意向を基に毎日チェックしている「ケアプランチェック表」による実践状況や毎月のカンファレンスとモニタリング評価に加え、主治医や訪問看護師による意見も参考にしながら現状に即したケアプラン作成に努めている。また、プランは定められた期間だけではなく、入退院や状態の変化、意向の変化等に合わせて見直し、必要に応じて都度作り直している。

理念を玄関とフロアの目に付く所に掲示すると共に、毎月のユニット会議で処遇を話し合う際に理念を振り返る機会を設けており、理念の共有と実践につながっている。また、毎年事業計画の中に理念とは別に年度目標を立て、理念を補足している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ユニット会議内で、お一人おひとりの意向に沿ったサービス提供となっているか、常に意識してサービス内容について話し合っている。	毎月のユニット会議で処遇や理念の振り返りを行うと共に、画一的なサービスの提供ではなく、個々の生活パターンを把握した上で支援につなげられるよう日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は感染症の流行状況によってできる範囲で行っている。回覧板を通して学校や地域の情報を得るなど繋がりを大切にしている。	以前は町内サロンや地域の運動会に参加したり、中学生の職場体験の受け入れ等、積極的に地域交流していたが、現在はコロナ禍のため控えている。コロナ収束後は地域交流等の活動再開に期待を寄せている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	オレンジの窓として看板を掲げ相談を受けている。認知症の研修を受けた職員が地域のサロンに参加し、認知症の相談窓口の紹介や認知症に対し理解が深まるよう活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、参加者の意見をサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。施設の活動状況、利用者状況、事故、ヒヤリハット報告、外部評価への取り組み状況等の報告により施設の現状を開示でき、有意義な意見交換の場となっている。	コロナ感染状況が幾分落ち着いた昨年11月にメンバー参加による会議を実施することができたが、以降は再び感染拡大したため書面に代えての開催としている。メンバーに資料を送付して意見を求め、議事録にまとめたものを行政に提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営に関する相談は市に随時連絡を取り相談や助言を得ている。介護事故発生時は必要な報告を行い再発防止の為、現状を伝え助言や指導を受けている。	運営推進会議や介護認定等、介護保険に関する諸手続きのため行政を訪問した際、意見や助言をもらっている。また、リモートによる集団指導や介護事業所連絡協議会との意見交換等により連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止対象となる具体的な行為や、その弊害について学び、全職員共通の基本的認識として理解できるように研修を設けている。身体拘束廃止委員会では、ご本人の行動を分析し、ケアの方法を見直し、根本的に解決する努力を行っている。	年2回外部研修に参加し、フィードバックを含む内部研修を行うと共に身体拘束廃止委員会を2か月毎に実施し拘束のない暮らしの支援につなげている。また、3か月毎に「虐待の芽チェックリスト」にて職員の行動を振り返る等、職員全員で意識づけを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、高齢者虐待と身体拘束について施設内研修を計画し、全職員が参加している。事業所内や自宅で、虐待を受けたとみられる高齢者を発見した際は、市や地域包括支援センターへ報告する義務があることを共通認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解が深められるよう研修を設けている。日常生活自立支援事業や成年後見制度の個々の必要性については、関係者に相談し活用するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には重要事項を利用者、家族に分かりやすく丁寧に説明し理解、同意を得ている。内容が変更になった際には変更理由を説明し、十分説明を行い、不明な点はないか尋ね、理解、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や外部の相談窓口について、入居時の重要事項の中で説明している。また、日頃から掲示により窓口を明示している。事業所内の相談や苦情は随時、担当者が受付し、運営に反映している。	コロナ禍のため、基本的に面会は中止としているが、支払い等で来られた際には意見や要望はないか尋ねるようにしている。また、ケアプラン作成時に電話で家族の意向を尋ねるほか、今後は家族からの希望もありタブレット面会を計画しており、意見をもらう機会につなげたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議等で出された意見や提案等は必要に応じて代表者へ報告し、改善に向けて検討し、サービスの質の向上を図っている。	申し送り時や休憩時間等、随時職員の意見を聞くほか、年2回人事考課を兼ねた管理者との個別面談を実施し、運営に関する内容や異動の希望についても具体的な意見や提案を聞き取り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度と人事考課制度を取り入れ、定期的に自己目標の評価を行い、面接により上司に労働環境に対する意見や要望を伝える機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望やレベルに適した法人内外の研修に参加できる機会を確保し、スキルアップを図っている。新入職員研修では職場の基本的な知識、対人援助のマナーなどを学んでいる。実務者研修や資格取得の為の研修は働きながら無理なく受講できるよう支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会やグループホーム協議会に加入し、初心者、中堅、管理者などレベルに応じた研修に参加している。認知症キャラバンメイト活動や認知症サポートワーカー活動に参加し、同業者との交流により、サービスの質の向上に役立っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面接でご本人の困りごとを本人の立場に立ち傾聴し、寄り添いながら信頼関係を築き、その後の生活について本人の意思を尊重し、サービスに繋げるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族のこれまでの労をねぎらい意識して話しやすい環境、関係作りに心掛け、不安や悩みを打ち明けやすいよう傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等が、どのような事で困っているのか、何を求めているのか、生活上の課題解決の優先順位を見極め、必要に応じて他の介護保険サービスや医療、保健サービスについても説明し、居宅支援事業所の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の生活歴や得意とする事(園芸、昔話、季節行事)を教わり、励まし支え合う関係づくりを行っている。日常の家事や季節の行事等を通じて、利用者と職員は共に生きる者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時家族と面会、電話、さくら通信等で情報交換を行っている。利用者と家族の関係性を理解しながら、絆を大切にし、家族とスタッフが協力しあい、個々の問題解決に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、地域行事に参加し、知人や友人と会い、行きつけの美容室へ出かける等、馴染みの関係が継続できるよう努めている。	これまでの人間関係や馴染みの関係を本人や家族、ケアマネジャーや医療機関の職員等から情報収集している。基本的に現在は面会中止にしているが、急な面会等については、窓越しにて対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が安心して過ごせるよう居間や食堂の座席に配慮している。孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入り、会話の橋渡しをするなどして対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も地域との関わりを通して関係性を保ち、必要に応じて本人、家族の相談や窓口の紹介などの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や職歴、趣味、嗜好等を把握し、個々の有する能力を活用しながら、その方のペースに合った本人本位の望む暮らしが実現できるよう支援している。	入居前の情報として好きなことやしたいこと等、嗜好や生活歴を詳しく聞き取り、編み物が得意な方には入居後も続けられるよう支援している。入居後も日々の様子観察等から思いの把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所等との連携により情報収集を行い、また、本人、家族からの聞き取りにより、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後はケアプランの見直しごとに再アセスメントを行いご本人の健康状態、日常生活動作、趣味、嗜好の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の解決すべき課題を明確にし、本人、家族の意向を尋ねている。毎月のユニット会議で課題解決の為の意見を出し合い、必要に応じて介護計画に反映している。利用者の状態に変化があれば随時介護計画を見直している。	毎月のカンファレンスやモニタリング評価、また毎日のケアプランチェックのほか、主治医や訪問看護師からは「照会文書」で意見をもらいケアプランに反映させている。入退院や身体状態に変化がみられた場合には、その都度カンファレンスを行い、現状に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議において、ケア実践の結果や利用者の変化、職員の気づきについて情報共有を行い、新たなニーズの表出を行っている。介護計画の見直しは職員間の意見を反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	絶えず変化する利用者、家族の意向に適切に対応できるよう小規模施設の特徴を活かし、直ぐに職員間で話し合いの場を持ち、臨機応変な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ社会参加の場所や地域の行楽地、生活に必要な相談の場所等を把握し、本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、必要に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼し、安心できるかかりつけ医と事業所は連携し、適切な医療を受け、健康を維持できるよう支援している。	入居後もこれまでのかかりつけ医を希望される方が多く、協力医療機関以外の医療機関も含めた訪問診療を受けている。受診の内容は介護記録に記入すると共に、家族には状況に応じて報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の健康状態に変化が現れた場合には、かかりつけ医療機関や施設が契約している訪問看護事業所へ状態報告し、指示や助言を受け、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行い医療機関にてスムーズに治療が行われるよう協力している。また、入院中の利用者の状態について、随時医療機関のソーシャルワーカーから情報を得ながら、本人の状態を把握し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に対し、重度化した場合の施設の方針を説明している。状態が悪化した場合には必要な情報を提供し、随時話し合いながら、本人や家族が希望する適切なサービスを提供できるよう支援している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得るほか、入居後も状態の変化に応じて都度、説明と同意を行うことで変化する思いを汲み取り確認している。これまでに看取りの事例はあり、スキルアップのための研修もオンラインで受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命講習会や救急搬送時の連携における講習会に参加し、急変や事故発生時の知識、技術の習得に努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>隣接する施設と協力体制を取り、年2回昼間、夜間の想定で消防署の立ち合いの下、避難訓練を行っている。感染症に配慮し、実施できない時には自主避難訓練を実施している。</p>	<p>年2回夜間想定を含む火災訓練を消防署立ち合いの下で実施するほか、事前に通報手順や避難経路の確認等を実施している。また、月1回程度コンセントのほこり取りを兼ね、ベッド周辺の環境を点検している。備品として今年度、発電機を購入している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入退室時のマナーやデリケートな排泄介助時の声掛け等、人格やプライバシーに配慮している。	倫理や法令順守、プライバシーに関する研修会を年間研修計画に組み込み、トイレ誘導の際の声のかけ方や日中、使わない間はポータブルトイレにカバーをかけておく等、羞恥心に配慮した支援につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉により十分に自分の意思を伝えられない利用者に対し、個々に合ったコミュニケーション方法を心がけ、意思決定や希望を伝えやすいよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動や静養時間、起床や就寝時間、入浴時間や回数等、利用者個々の意向による生活リズムや選択を尊重し、柔軟に対		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が衣服を選びやすいよう選択肢を示している。散髪時の髪型は、本人が好みの髪型を伝えられるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きやメニューの説明等、利用者の有する能力を活かし、楽しみながら食事の準備を行っている。嫌いな物やアレルギーがあれば代替品で対応している。食事の座席はご本人の意向を尊重している。	食事は外部委託のため、メニュー変更は難しいが、代わりにおやつ作りに工夫を凝らすことで利用者の食べたいもののリクエストに答えている。令和4年4月からは特養の厨房による食事提供を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立を元に調理し、嚥下状態や好みに合わせた形状で提供している。スプーンや箸、フォーク等をご本人の状態や習慣に合わせて準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、残存機能を活かし、本人のレベルにあわせた口腔ケアに適した道具を使用している。必要時には歯科受診を行い残存歯を維持できるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄状況に合わせおむつやリハビリパンツ、尿取りパット等の選択を行っている。排泄のサインを見逃さないよう観察しトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を参考に個々の排泄状況を把握してトイレ誘導やパット交換を行っている。2号館は居室にトイレが配置されていることから夜間もトイレに起きる方が多い。退院後のおむつは早期にリハビリパンツに戻す支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いメニューを提供している。水分摂取は好みの飲み物を準備し摂取量の確保に努めている。リハビリ体操や運動レクリエーション、散歩等を行い適度な運動を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	シャワー浴やリフト浴等、利用者の意向に応じ 週に3回以上入浴できるように支援している。その日の体調に合わせて、入浴日を変更する等している。また、ゆず湯や入浴剤を活用し、楽しみながら入浴できるよう工夫している。	週3回以上の入浴としているが、足浴やシャワー浴を含め希望があればいつでも入浴は可能である。また、1号館には移動用リフトを備えているため、体力低下や体調に合わせた入浴支援が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の離床時間はご本人の負担とならないようその日の体調に合わせて、休憩時間を設ける等している。夜間の睡眠は室温や湿度、寝具の調整等を行い快適な睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員が管理し、利用者別にお薬情報書を綴り、目的・副作用・用法・用量について理解し、いつでも確認できるようにしている。症状の変化、薬の飲みこみ状況の変化は随時医師や薬剤師に報告し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの衣類や、嗜好品等の情報について入居前に聞き取り、引き続き愛用品に囲まれた豊かな生活を楽しめるよう支援している。楽器の演奏、歌など披露できる機会を設け、趣味の継続に張りが持てるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行に配慮しながら、散歩や庭の散策をする時間を提供している。ウッドデッキで花を育て、外気に当たりながらお茶の時間を過ごすなど、工夫し戸外で過ごす時間を設けている。	コロナ感染症の拡大により、この1年間は外食や外出、ドライブに出かけていない。そのためストレス解消にとホーム内で運動会を開催したり、ゲームの工夫やクリスマス会の工夫等、毎月何かしら行事を計画し、体を動かしたり楽しく過ごせるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金を所持し使う事の大切さを理解し、トラブルとにならないよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の声が聞きたいと希望される時は、いつでも電話できるように支援している。手紙の代筆や代読支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールや居室内に温度、湿度計を設置し快適な空間を保てるようにしている。高い窓からの彩光を取り入れ、眩しきは排除できるよう窓ガラスにフィルム施している。対面式の台所から、常にご利用者の見守りができ、ゆったりとした広い空間を食事スペースとリビングスペースに分けている。	フロアには雛祭りや桜の作品が飾られるほか、編み物が得意な利用者の作品が飾られている。また、ウッドデッキには国体の花いっぱい運動で育てたプランターの花を飾っており、利用者や職員が日向ぼっこを兼ねて花を眺めながらゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時にはいつでも自室で過ごせるよう配慮している。食堂にはテーブルやソファが配置され、気の合う者同士で会話したり、テレビ視聴・レクリエーションを楽しんだり、時にはウッドデッキでお茶を飲んだりできるように、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>懐かしいアルバムをいつでも開いて見れる場所に置いている。自宅で使用していた日用品や家具、CDラジカセ、テレビ等馴染みのある物や使い慣れた物を居室に持ち込み使用し、心地良く安心して生活して頂けるよう工夫している。</p>	<p>エアコンと電動ベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、2号館にはトイレも備えている。またテレビやラジカセ等、馴染みの品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう自由に配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居時はお一人おひとりの状態に合わせて居室内の手すりを増設したり、また、麻痺側を考慮し、室内ベッドの位置を変更し、介助バーを設置する等している。身体状況の変化に合わせて、環境を整え出来る限り残存機能を活かし、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない